

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 公民 科目 政治経済

教 科： 公民 科 目： 政治経済 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1 組～6組：氏名 老田 望 ）

使用教科書：（「政治・経済」（東京書籍））

教科 公民 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】現代の政治、現代の経済、現代社会の諸課題について、解を深め、基礎的な知識を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】国際社会を多面的・多角的にとらえる見方・考え方といった多様性を身に付ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】人間社会において社会形成者として諸課題を解決しようとする、意欲・態度を身につける。

科目 政治経済 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治的・経済的・社会的な現代の諸課題について、その背景や意義をとらえながら、思考・考察に必要な知識や技能を身に付ける。	政治的・経済的・社会的な視野を通して、現代的な諸課題に関わるものを思考し、判断し、自ら表現できるような力を育む。	政治・経済がグローバル化する中で、国際社会を意識し、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を主体的に積極的に磨いていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第2章 現代の経済 1 節 現代の資本主義経済 資本主義体制の成立 資本主義経済の発展と変容 2 節 現代経済のしくみ 経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業	○産業と市場、経済体制などの経済活動について理解させる。 ○資本主義経済の確立について考えさせ、その特徴を把握させる。 ○資本主義経済の変容を認識し、修正資本主義・社会主義経済・新自由主義経済の内容を理解させる。 ○経済主体の特徴を考え、その循環を考察させる。 ○株式会社の活動や現代の企業のあり方を考察させる。	・資本主義体制の内容が理解できている。 ・資本主義体制の理解したことがどう展開していくのかできている。 ・経済主体と循環について理解できている。 ・企業のあり方を正しく考えることができる。	○	○		6
	市場経済の機能と限界 国民所得と経済成長 金融のしくみと機能 財政のしくみと機能	○市場のメカニズムを認識させ、市場の失敗・寡占や独占における内容を理解させる。 ○フローやストックの側面を考え、国民経済の指標・経済活動の波・物価の変化などを把握させる。 ○通貨制度・金融市場・金融機関・市中銀行の役割・中央銀行の役割・金融政策などを理解させる。 ○財政政策を認識し、租税や公債の意味や財政改革の必要性を把握させる。	・市場経済の意味を理解し、どう社会とつながりがあるか身に付いている。 ・経済成長とは何かを理解できている。 ・金融の役割を理解し、どう社会とつながりがあるか身に付いている。 ・財政の役割を理解し、どう社会とつながりがあるか身に付いている。	○	○		4
	定期考查			○	○	○	1
	3 節 日本経済の発展と産業構造の変化 経済再建から高度成長へ オイルショック後の日本経済 日本経済の現状	○経済復興の背景や高度経済成長の要因を考察させる。 ○安定成長の背景や産業の転換、バブル経済の内容を理解させる。 ○バブル経済崩壊後の日本経済のあり方を考察させる。	・日本経済の歴史が理解できている。 ・日本経済史で理解したことを多角的・多面的に表現することができている。 ・日本経済の現状を理解でき、どう社会とつながりがあるか身に付いている。	○	○	○	12
	定期考查			○	○	○	1

2 学期	4 節 福祉社会と日本経済の課題 公害と環境保全 消費者問題 農業・食料問題 中小企業の現状と課題 雇用と労働問題 社会保障と福祉	○公害対策や循環型社会のあり方を考察させる。 ○消費者保護と消費者の自立の側面や背景を考察させる。 ○農業政策の変遷を認識し、食料自給率の低下とその問題点を理解させる。 ○経済の二重構造を認識し、中小企業における活路を考察させる。 ○労働運動・労働基本権・労働三法・現代の労働問題を理解させる。 ○社会保障の4つの柱を認識し、社会保障の現状と福祉政策の展開を把握させる。	・公害問題を理解でき、環境問題に意欲的である。 ・消費者問題の意味を理解し、どう社会とつながりがあるか身に付いている。 ・農業・食料問題に関心があり、的確に考えることができる。 ・中小企業の問題に関心があり、積極的に考えることができる。 ・雇用問題が、今後どうなっていくのか自己のキャリアプランを意識して取り組むことができる。 ・社会保障と福祉の関係を自分のこととしてとらえ、社会との結びつきが理解できている。	○	○		8
	5 節 国民経済と国際経済 貿易と国際収支 国際経済体制の展開	○国際分業の意味や為替のあり方、国際収支のしくみを理解させる。 ○金本位制とIMF体制の相違について認識し、変動為替相場制のあり方やWTOの役割や意義について考察させる。	・貿易における役割が理解できている。 ・国際経済に関心があり、積極的に考えることができる。	○	○		4
	定期考査			○	○	○	1
	発展途上国の経済 地域主義の動き グローバル化する世界経済	○「南北問題」「南南問題」を考え、BRICSの台頭などを理解させる。 ○地域統合の潮流やEUの存在意義、FTAの現状などを把握させる。 ○国際資本移動の拡大がもたらす意義や問題点を考察させる。	・発展途上国の経済状況を理解できている。 ・地域主義の動向を理解でき、どう世界と結びつきがあるか身に付いている。 ・日本の国際経済の状況を理解でき、多角的・多面的に表現することができる。	○	○		10
定期考査			○	○	○	1	
3 学期	第3章 現代社会の諸課題 1 節 日本社会の諸課題 少子高齢化社会において社会保障はどうあるべきか 地域社会を活性化するにはどうすればよいのか どのようにして若者の労働環境を改善するか 中小企業の活路はどこに どうする日本の「食」と「農」	○給付と負担のバランスをどうとるべきかを認識させ、望ましい社会保障のあり方を考察させる。 ○地域社会の現状を認識し、地域の今後について考察させる。 ○雇用環境の変化を認識し、雇用のあり方を考察させる。 ○中小企業を取り巻く経済環境と将来の展望を考察させる。 ○「食」と「農」のあり方や背景を考え、食の安全・安心に向けてどう活動するのか考察させる。	・少子高齢化社会において社会保障はどうあるべきか考えることができている。 ・地域社会を活性化するにはどうすればよい表現できている。 ・若者の労働環境を改善するにはどのようにするのがいいのか判断することができる。 ・中小企業の活路を見出すにはどのようなことがあるか考えることができている。 ・日本の「食」と「農」に関心があり、積極的に理解することができる。			○	4
	2 節 国際社会の諸課題 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか 経済援助は貧困を削除できるか	○エネルギーの効率的な利用とは何かを、様々な観点から考察させる。 ○経済格差と開発援助のあり方などを考察させる。	・地球環境にやさしいエネルギーをどう確保すべきか考えることができている。 ・経済援助が貧困を軽減・削除できるか判断することができる。			○	4
	定期考査			○	○	○	1
合計							50